

## 第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

現代日本において、ジェンダー平等を激しく批判し、ナショナリズムを鼓吹する勢力を指して「保守」、人権や平和について抽象的・理想主義的な擁護をする人々を揶揄して「リベラル」という言葉が使われることがある。<sup>(注2)</sup><sup>①</sup>かくも混乱した言論状況を目の前にして、さらにその混乱にハクシヤをかけることは、不毛な試みであろう。しかしながら、本書ではそれでもなお「保守」と「リベラル」という視座において、近現代日本の政治と思想を読み解いてみようと考えている。<sup>②</sup>その理由は以下の通りである。

一つは思考実験としての意義である。言い換えれば、「保守」と「リベラル」という概念を前提に、それに見合うものがたして近現代の日本に存在するかどうか、このことを真剣に考えてみたいのである。仮に日本にも「保守」と「リベラル」を見出せるとすれば、それはどのような個人や集団によって担われたのか。また、いかなる特質を持ったのか。あるいは逆に、典型的に「保守」と「リベラル」と呼べるものが存在しなかったとすれば、それはなぜなのか。これらの問いに答えることは、比較思想的な見地からしても興味深いであろう。

本書では後ほど詳しく検討するように、保守とリベリズムを次のように定義している。

まず、保守主義とは、「抽象的な理念に基づいて現実を根底から変革するのではなく、むしろ伝統のなかで培われた制度や慣習を重視し、そのような制度や慣習を通じて歴史的に形成された自由を発展させ、秩序ある漸進的改革を目指す思想や政治運動」ということになる。このような定義は、保守主義の祖とされる英国の思想家・政治家であるエドモンド・パークの議論に基づいている。

これに対しリベリズムは、「他者の恣意的な意志ではなく、自分自身の意志に従うという意味での自由の理念を中核に、寛容や正義の原則を重視し、多様な価値観を持つ諸個人が共に生きるための社会やその制度づくりを目指す思想や政治運動」と定義される。西洋において伝統的な「自由」や「リベラル」の道徳的理念がやがて一つの政治的・社会的なシャティ（イ）を持つに至ったのが、ここでの「リベリズム」である。

もちろんこのような「保守主義」や「リベリズム」は西洋的な起源を持つものであり、これを直ちに**a** 的なものと見なすわけにはいかない。これらの理念の持つ **b** 性や **c** 性を無視して、あたかも歴史を超えた存在であるかのように論じることが、**d** 中心主義の謗りを免れないだろう。

その一方、あらゆる理念や思想は、それが生まれた歴史的・社会的環境の制約を超えて拡大・浸透することがある。あるいはむしろ、そのようにもともと環境を打破して発展したものを、普遍的な理念や思想と呼ぶのかもしれない。

そうだとすれば、「保守主義」や「リベリズム」もまた、<sup>③</sup>それが生まれた西洋的な文脈を超えてはじめて普遍性を獲得することになる。近現代の日本は、

そのための重要なリトマス試験紙になるだろう。というのも、「保守主義」も「リベラリズム」もたしかに近代日本において受け入れられたものの、それだけに独特な困難と直面したからである。

「保守主義」にとつての困難とは、明治維新以来の日本がそれまでの幕藩体制のあり方を否定し、これに代わるものとして、西洋から多くの制度や理念を導入して出発したことである。さらに第二次世界大戦に敗北し、占領下において新たな憲法を制定したことである。少なく見ても、近代日本は二度にわたつて、政治や経済、社会や文化のあり方の大きな断絶を経験したことになる。結果として、「保守主義」の成立に必要な歴史の基本的な継続性・連続性において、近代日本は大きな問題を抱え込んだのである。

実際、明治においても、第二次世界大戦後においても、「保守」とされる政治勢力は、実はむしろ日々新たな制度や政策の導入に明け暮れたというのが実情だろう。このことは、言葉の本来の意味での「保守」が、日本ではなかなか確立しないことを意味した。もちろん、そのような二つの断絶を超えて継続性・連続性を見出すことも不可能ではないが、それを「保守」の伝統と呼ぶことには困難がどうしてもつきまとうのである。

「リベラリズム」はどうだろうか。なるほど、「自由」の意義を説く政党や政治家、思想家は近現代の日本においてけつして少なくない。明治を見ても「独立自尊」を説いた福沢諭吉がいるし、「自由党」を名乗る政党も存在した。明治維新直後からある時期までの日本において、「自由」という言葉が一世を風靡ふうびしたことは間違いないだろう。しかしながら、たしかに近代日本において「自由」の思想や理念がいくつかの目覚ましい達成を見たとはいえ、安定したりベラリズムの政治勢力が成立したとはいいがたい。福沢諭吉や石橋湛山、清沢冽などのタクエツしたりベラリストが存在するものの、思想家の武田清子の言葉を借りれば、日本においてリベラリズムの系譜は「稜線」<sup>(注4)</sup>のようであった。言い換えれば、幅広い裾野を社会に持つことはなかった。

第二次大戦後においても、たしかに「自由民主」を党名に掲げる政党が長期政権を実現したが、その場合の「自由」とは何かと言えば、反共という以上の意味を持つことは稀まれであった。「リベラリズム」をめぐる「コンセンサス」が確立したとも言えない。

このような困難にもかかわらず、本書では明治憲法体制の確立者であると同時に、自ら政党を組織した伊藤博文から始まる系譜を、陸奥宗光、原敬、西園寺公望、牧野伸顕へとたどり、戦後もその流れを汲む吉田茂の「保守本流」に着目している。<sup>(注5)</sup>その意味では、きわめて微弱とはいえ、近現代日本において一定の「保守」を見出せるというのが、本書の仮説となる。

「リベラル」についても、福沢諭吉から石橋湛山、清沢冽、さらに戦後においても丸山眞男らにおいて、日本における「リベラリズム」の重要な達成が見てとれる。仮にそれが「稜線」であったとしても、現代日本にとつても大きな意義を持つ歴史的蓄積をそこに見出すことができる。このことを本書は強調していきたいと思う。

ある意味で、政治家ばかりがいて思想家に乏しい「保守」<sup>(オ)</sup>に対し、ケツシュツした思想家はいても政治勢力としては弱い「リベラル」ということになり、

⑥そこに非対称を見出すことも可能である。とはいえ、それ自体が近代、あるいは今日の日本の実情であり、そのことを踏まえて今後の議論を進めるしかないだろう。

以上のような仮説がどれほどの説得力を持つにせよ、一つの思考実験として「保守」と「リベラル」という視角から振り返ることは、

A

を、よりダイナミックに理解するきっかけになるはずだ。

（出典 宇野重規「日本の保守とリベラル」）

（注1） ナショナリズム―自分たち国民、民族を重視するという考え。国家の利益を尊重する思想。民族主義、国家主義。

（注2） 揶揄―冗談や皮肉を言って相手をからかうこと。

（注3） 石橋湛山、清沢洌―石橋〓ジャーナリスト、政治家（総理大臣等）、教育者。清沢〓ジャーナリスト、評論家。

（注4） 稜線―山の尾根。

（注5） 反共―共産主義に反対すること。

（注6） 陸奥宗光、原敬、西園寺公望、牧野伸顕―陸奥〓明治期の外交官、政治家（外務大臣）。原〓外交官、政治家（総理大臣等） 西園寺〓公家、教育者、政治家（総理大臣等）。牧野伸顕〓外交官、政治家（内大臣等）。

（注7） 丸山眞男―政治学者、思想史家。

問1 傍線部(ア)～(オ)を漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の1～5のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は(ア) 1・(イ) 2・(ウ) 3・(エ) 4・(オ) 5。

(ア) ハクシヤ

1

- |             |           |          |            |           |
|-------------|-----------|----------|------------|-----------|
| 5           | 4         | 3        | 2          | 1         |
| ヒョウハクの旅に出る。 | ミヤクハクを測る。 | 彼はハクシキだ。 | ハクアの城を訪れる。 | ハクシンの演技だ。 |

(イ) チョウリュウ

2

- |            |             |               |              |             |
|------------|-------------|---------------|--------------|-------------|
| 5          | 4           | 3             | 2            | 1           |
| チョウバツを恐れる。 | 債務のチョウカに陥る。 | 回復のチョウコウが現れる。 | 社会のフウチョウを嘆く。 | 楽器をチョウリツする。 |

(ウ) シヤテイ

3

- |            |            |              |            |             |
|------------|------------|--------------|------------|-------------|
| 5          | 4          | 3            | 2          | 1           |
| 著作をシンテイする。 | 状況をテイサツする。 | テイネイな対応を求める。 | 条文をカイテイする。 | 被害のテイドを調べる。 |

(エ) タクエツ

4

- |             |            |            |             |            |
|-------------|------------|------------|-------------|------------|
| 5           | 4          | 3          | 2           | 1          |
| 皆でショクタクを囲む。 | 再調査をイタクする。 | 旅行のシタクをする。 | 新分野をカイタクする。 | 決議をサイタクする。 |

(オ) ケツシュツ

5

- |             |           |            |             |           |
|-------------|-----------|------------|-------------|-----------|
| 5           | 4         | 3          | 2           | 1         |
| ケツサクを完成させる。 | ケツカを重視する。 | 河川がケツカイする。 | 商品にケツカンがある。 | ケツペキな性格だ。 |

問 2 傍線部①「かくも混乱した言論状況」の内容として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 6。

- 1 ジェンダー平等とナショナリズムは相反するものではないのに、一律に「保守」として批判するような状況。
- 2 人権や平和、ジェンダー平等といった抽象的・理想主義的概念だけを「リベラル」の内容にとらえるような状況。
- 3 ナショナリズムの支持者は「保守」、理想主義者は「リベラル」として、むやみに両者の対立をあおるような状況。
- 4 ジェンダー平等や人権といった、本来は「保守」と「リベラル」を問わないような要素が両者を定義づけている状況。
- 5 人権や平和を理想として擁護する人々を「リベラル」と言って揶揄し、おとしめる傾向が見られる状況。

問 3 傍線部②「その理由」の内容として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

- 1 近現代の日本に「保守」と「リベラル」が本当に存在するかを考えるとという視点は意義がある。
- 2 まず思考実験としての意義があるし、「保守」と「リベラル」を定義することにも意義がある。
- 3 「保守」と「リベラル」のそれぞれに該当する政治家や政党を明らかにすることは意義がある。
- 4 西洋に起源を持つ「保守主義」や「リベラリズム」が正しいものか検討することは意義がある。
- 5 日本の実情を改善していくにあたって、近現代の政治と思想を理解しておくのは意義がある。

問 4 a d に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

|                                                               |                                                               |                                                               |                                                               |                                                               |
|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 5                                                             | 4                                                             | 3                                                             | 2                                                             | 1                                                             |
| <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">a</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">a</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">a</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">a</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">a</span> |
| 理想                                                            | 普遍                                                            | 地域                                                            | 普遍                                                            | 歴史                                                            |
| <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">b</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">b</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">b</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">b</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">b</span> |
| 歴史                                                            | 西洋                                                            | 普遍                                                            | 歴史                                                            | 西洋                                                            |
| <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">c</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">c</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">c</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">c</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">c</span> |
| 普遍                                                            | 地域                                                            | 歴史                                                            | 地域                                                            | 普遍                                                            |
| <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">d</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">d</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">d</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">d</span> | <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">d</span> |
| 地域                                                            | 理想                                                            | 西洋                                                            | 西洋                                                            | 地域                                                            |

問5 傍線部③「それが生まれた西洋的な文脈を超えてはじめて普遍性を獲得する」の説明として適切なものを、次のうちから一つ選べ。

解答番号は 9。

- 1 さまざまな問題を抱えつつも、近現代の日本で認められたことによって世界に広まったということ。
- 2 他の理念や思想とは異なり、西洋で成立し発展するという特別な道をたどっているということ。
- 3 多くの理念や思想がそうであるように、地理的・社会的環境の制約から解放されるということ。
- 4 環境や歴史とは無関係に生まれた超越的な存在として評価されるようになるということ。
- 5 西洋という地域や歴史の枠を超えて広く他の地域にも受け入れられるようになるということ。

問6 傍線部④「それぞれに独特な困難と直面した」の説明として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- 1 前者においても後者においても政党や政治家、思想家は多いが、社会の中で支持を得ていないということ。
- 2 前者は外部の制度や政策を受け入れることで継続性を損ない、後者は広く社会に根付いていないということ。
- 3 前者は明治維新によって幕藩体制が断絶し、後者は「自由」と名のつく政党が政権を担えなかったということ。
- 4 前者においても後者においても思想家は輩出したが、政治勢力として安定するには至らなかったということ。
- 5 前者は日本国憲法によって明治以来の伝統を断ち切れ、後者は空理空論の域を出ていないということ。

問7 傍線部⑤「その意味」の内容として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- 1 いわゆる「保守本流」と呼ばれる政治家の流れが続いているという意味。
- 2 伊藤博文や西園寺公望、吉田茂などの首相経験者を輩出したという意味。
- 3 明治憲法体制下で消滅するも、戦後の日本において復活したという意味。
- 4 明治憲法体制を確立し、政党を組織した伊藤博文の意思が健在であるという意味。
- 5 伊藤博文に始まる「保守本流」が次第に弱まりつつも戦後まで続いたという意味。

問 8 傍線部⑥「非対称」について、仮に「対称」であるとすればどういふことになるのか、説明として適切なものを、次のうちから一つ選べ。

解答番号は 12。

- 1 「保守」の政治家は思想を深め、「リベラル」な思想家は政治力を高めて、互いによいライバルになるといふこと。
- 2 「保守」、「リベラル」ともに、優れた思想家であり、同時に有能な政治家でもあるような人物が多いといふこと。
- 3 「保守」においては優れた思想を持つ政治家が多く、「リベラル」では政治家としても有能な思想家が多いといふこと。
- 4 「保守」においては政治家よりも思想家が充実し、「リベラル」においては思想家よりも政治家が充実するといふこと。
- 5 「保守」、「リベラル」ともに、政治家が充実し、思想家が弱い、もしくは思想家が充実し、政治家が弱いといふこと。

問 9

A

に入る語句として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- 1 日本の政党政治の流れ
- 2 「保守」と「リベラル」の本質
- 3 近現代日本の政治と思想
- 4 明治維新と第二次世界大戦の意味
- 5 政治と思想の調和

問10

本文の内容に合致するものを、次のうちから二つ選べ。解答番号は 14、15 (順不同)。

- 1 現代日本にとって大きな意義を持つ「リベリズム」の歴史的蓄積は、思想家の福沢諭吉・丸山眞男、政治家の石橋湛山などが社会の中で支持を広げ、一定の勢力を形成したという点にも見出すことができる。
- 2 明治維新によってそれまでの幕藩体制のあり方が否定され、第二次世界大戦の敗北によって新たな憲法が制定されたという二つの大きな出来事は、保守主義とリベリズム双方を深める契機となった。
- 3 理念や思想は、それが生まれた歴史的・社会的環境の制約を超えて拡大・浸透するものであるが、そのようにして発展するのはきわめて難しく、したがって普遍的な存在にはなり得ない。
- 4 現代の日本は、ジェンダー平等を批判したり、ナショナリズムを声高に唱えたりする人々と、人権や平和といった民主主義の理想を掲げる人々が不毛な対立を続けているので、混乱を極めている。
- 5 近現代日本の政治と思想について、「保守」と「リベラル」という視点で読み解き、それらの存在の有無や特徴、それらを担った人々や集団について考察することは、その理解を深めることにつながると思われる。
- 6 保守主義においては、伝統のなかで培われた制度や慣習を重んじ、その中で歴史的に形成された自由を発展させて、秩序を保ちつつゆつくりと改革していくという方法がとられてきた。
- 7 明治維新直後からある時期まで「自由」の思想や理念は目覚ましい達成を見たが、本格的なリベリズムの政治勢力は第二次世界大戦後の「自由民主」を名のる政党の誕生によって初めて形成された。

## 第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

心理学者東洋<sup>あづまひろし</sup>らの研究グループは、一九七〇年代に約一〇年間にわたってアメリカの研究者チームと、日米母子のしつけと教育の方法に関する比較共同研究に取り組んだ。東によれば、日本とアメリカの母親の育児態度を比較した時、両者の間にははっきりとした傾向の違いが見出せたという。実験はタキ<sup>テ</sup>にわたっているが、あえてその結論をひとことというなら、アメリカの母親は「教え込み型」育児であるのに対して、日本の母親は「しみ込み型」であるという点にある（東洋『日本人のしつけと教育―発達の日米比較にもとづいて―』）。

ここで「教え込み」とか「しみ込み」とかいうのはいったいどういうことか。この違いを、彼らが行った一つの実験とその結果を紹介することで説明してみよう。それは、たくさんの種類の積み木を子どもの前に置いて、形とか特徴などの一定の原理によってその積み木を分類する作業を、母親からその子どもに教えてもらう、という実験である。その教え方を比較観察してみると、概してアメリカの母親は、言葉によって分類の要素を一つひとつ子どもに教え、それを子どもに言葉で確認しながら教えていく。言葉による **a** な教え方である。一方日本の母親は、言葉で教えるより、まず母親みずからが子ども目の前でやってみせ、次にその通り子どもにやらせてみる。できないとまた母親が自分でやってみせて、子どもに挑戦させ、その過程を繰り返すという。言葉でいうのは、もっぱら「○○ちゃん、がんばって!」「そうよ、やっぱり賢いわねえ」などといった一種のはげましである。言葉で意味や理論を理解させるよりも、直接自分でやってみるといった **b** な教え方が、日本のお母さんのやり方なのである。

アメリカでは、言葉で表現して分析してわからせる教え方、つまり知識をもっている母親が、権威をもって子どもにその知識を伝授する。これを東は「教え込み型」と名づける。日本の母親は、<sup>(イ)</sup>モハン<sup>イ</sup>をやってみせることで子どもにどうしたらよいか見つけさせる。権威をもって子どもの前に立ち知識を伝授するというのはなく、できてほしいという母親の「思いの丈<sup>たけ</sup>」を子どもにしみ込ませ、子どもはそれを原動力にしてトライし一生懸命がんばる、というのである。日本の母親に特徴的なこの教え方を、東は「しみ込み型」と名づけた。それは「見て習わせる」という文字通りの意味で、「見習う」教え方である。<sup>(1)</sup>なおおもしろいことに、教え方はこのように大きく違うけれども、子どもたちが課題を達成するまでにかかる時間は、平均してみれば、日米の間にほとんど<sup>(2)</sup>違いはなかったそうである。

近代以後に始まった学校教育は、いうまでもなく「教え込み型」の教育の原理に立っている。東の適切な文章で、これを説明しよう。

「教え込み」は、基本的に子どもは教えられることによって学ぶという前提に立つ。教える者と教えられる者とが向き合っている意図的な教授である。そこでは「教える者」（教師）と「教えられる者」（学習者）の役割がはっきり分かれて存在することが前提になる。教える者は、そこで必要とされる知識

や技能を持っており、また教えるためのカリキュラムを持っている。教えられる者はその知識や技能を持っていないで、それを獲得することを必要としている。その落差が両者の間に権威と（ウ）ジユウウの関係を生ずる。

ここでの〈教える―教えられる〉という関係をつないでいる手段は〈言葉〉である。教師は〈言葉〉（言語）によって **c** を伝え、〈言葉〉でやり方を説明する。学ぶ側（学習者）も〈言葉〉によってその理解を確認しながら、「教え込み」を成り立たせることになる。これがアメリカの母親の基本的態度であったが、それはまた現代の学校教育がよって立つ原理にほかならない。

一方「しみ込み」については、東は次のようにいう。

これに対して「しみ込み」は、模倣および環境の持つ教育作用に依存する。環境が整っていてよいモデルがあれば、子どもは「自然に」学ぶという前提に立つ。ここでいう環境は、物の環境も含むけれども、より重要なのは人の環境である。人と一緒にいろいろな行動をしているうちに、人について、また人の持っている知識や技能や考えについて、自然に学習してしまう。「**A**」の類である。

ところで、東らの日米の比較研究によれば、「しみ込み」戦略をとる日本の母親は、アメリカの母親に比べて、就学前の子どもにとりたてて意図的に教えることはしない。文字や数を直接教えることは避け、もっぱらよい環境を子どもに与えることにこまやかなハイリヨ（エ）をするという。子どもはとりたてて教えないでも環境から学習するものだし、まわりの人々の真似をしたりおとなを質問攻めにしたりして知識を取り込むもの、と考えるからである。これが日本の「しみ込み型」の教育をささえている学習観である。

ここでは、〈教える―教えられる〉という関係のあり方に注意していただきたい。「教え込み型」では、〈教える者〉と〈教えられる者〉との役割関係はつきり分かれていた。母親と子ども、教師と生徒と、両者の関係ははつきりと切斷され、しかも互いに面と向かい合った関係となっている。近代以後の学校教育は、大量の知識を一定年齢の子どもたちに教えることが求められてきた。大量の知識を限られた時間で教えるには、それを一定の秩序だった体系に組織し、効率的に教え込む必要がある。そのためには、こうした役割関係がはつきりと分離した「教え込み型」の関係をどうしても必要としたのである。

一方「しみ込み型」では、両者の役割はきわめてあいまいである。日本の母親は子どもに対して〈教える者〉としての立場に立つことを、できるだけ避けようとする。母親は子どもに自分からあれこれ教えない。むしろ逆に〈学ぶ者〉つまり子どもの立場に、子どもとともに立とうとする。子どもとの関係を〈教える―教えられる〉という面と向かい合った関係にしないで、子どもと密着し共生の關係に身をおこうとする。みずからが〈学ぶ者〉（子ども）のよきモデ

ルとなり、子どものよき環境の一部としての関係を、子どもと取り結ぼうとするといってもよい。あるいはまた次のようにいってもよいだろう。本来〈教える者〉であるはずの母親が、ことさら〈学ぶ者〉の立場に立つ（いわばわが子の横に並ぶ）ことによって、〈子どもが学ぶことを教えようとする〉のだ、と。

東はこの「<sup>（オ）</sup>しみ込み」モデルの教育は、日本に昔からあったという。すでに室町時代の世阿弥の能楽論書『花伝書』にも認められるし、内弟子制度という伝統的なギゲイの教育システムも、「しみ込み型」の教育にはかならない、というのである。

（出典 辻本雅史『「学び」の復権』）

\* 省略箇所がある。

問1 傍線部(ア)～(オ)を漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の1～5のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は(ア) 16・(イ) 17・(ウ) 18・(エ) 19・(オ) 20。

(ア) タキ

16

- |           |             |            |           |             |
|-----------|-------------|------------|-----------|-------------|
| 5         | 4           | 3          | 2         | 1           |
| 人生のキロに立つ。 | キリツ正しく生活する。 | 少しガイキにふれる。 | キドウを修正する。 | 人間にキガイを加える。 |

(イ) モハン

17

- |             |             |            |             |             |
|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|
| 5           | 4           | 3          | 2           | 1           |
| 樹木がハンモしている。 | 道具をハンニユウする。 | ハンギを見事に彫る。 | 人のハンダンに委ねる。 | コウハンな知識を持つ。 |

(ウ) ジュヨウ

18

- |             |           |            |             |            |
|-------------|-----------|------------|-------------|------------|
| 5           | 4         | 3          | 2           | 1          |
| ジュギョウを欠席する。 | ジュキョウを学ぶ。 | これはヒツジュ品だ。 | 悲願がジョウジュする。 | 生産をジュタクする。 |

(エ) ハイリヨ

19

- |            |             |            |            |             |
|------------|-------------|------------|------------|-------------|
| 5          | 4           | 3          | 2          | 1           |
| コウハイに敵が迫る。 | 異分子をハイジヨする。 | 事情をハイサツする。 | 秋のケハイを感じる。 | 古い制度をハイシする。 |

(オ) ギゲイ

20

- |             |            |              |             |            |
|-------------|------------|--------------|-------------|------------|
| 5           | 4          | 3            | 2           | 1          |
| 特別にベンギをはかる。 | 言動にギネンを抱く。 | 動物のギタイを観察する。 | ミョウギに目を見張る。 | シンギを明確にする。 |

問2

a

・ b

に入る語句を、次のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は a

21

、 b

22

。

a

1 高圧的で厳格

2 分析的で組織的

3 合理的で理想的

4 直接的で感情的

5 理性的で柔軟

b

1 実践的

2 理論的

3 計画的

4 場当たりの

5 感情的

問3

傍線部①「おもしろい」の理由として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は

23

。

1 昔から日本の母親は「教え込み型」の教育よりも「滲み込み型」の教育を選択していたから。

2 「見て習わせる」という「滲み込み型」教育は案外アメリカの教育より優れているから。

3 子どもに課題を達成させるためにはどのように教えるかよりも熱心さが大切であるから。

4 理想的なアメリカの教え方と非合理的な日本の教え方の効率に差がなかったから。

5 アメリカと日本の母親の教え方は大きく違うのに子どもの学習効率に大差がないから。

問4

傍線部②「近代以後に始まった学校教育」の説明として不適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は

24

。

1 「教えられる者」は知識や技能を持っていないので、それを獲得しようとしている。

2 教師は学習者に「教え込む」立場であるから、権威的な態度で臨むことが求められる。

3 「教えられる者」である学習者に対して、教師はカリキュラムに沿って教授を行う。

4 学習者と教師がいて、教師には「教え込む」ための知識と技能が必要とされている。

5 子どもは教えられることによって学ぶので、意図的な「教え込み」が必要である。

問 5

c

に入る語を、次のうちから一つ選べ。解答番号は 25。

- |   |    |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 理想 | 2 | 役割 | 3 | 概念 | 4 | 態度 | 5 | 正義 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

問 6

A

に入る句を、次のうちから一つ選べ。解答番号は 26。

- |   |               |
|---|---------------|
| 1 | 背に腹はかえられぬ     |
| 2 | 案ずるより産むが易し    |
| 3 | 火のないところに煙は立たぬ |
| 4 | 水は高きより低きに流れる  |
| 5 | 門前の小僧習わぬ経を読む  |

問 7

傍線部③「よい環境を子どもに与える」の内容に近い句を、次のうちから一つ選べ。解答番号は 27。

- |   |      |   |      |   |      |   |      |   |      |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | 孟母三遷 | 2 | 一期一会 | 3 | 取捨選択 | 4 | 是々非々 | 5 | 千載一遇 |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|

問 8 傍線部④「子どもと密着し共生の関係に身をおこうとする」によってもたらされるものは何か。適切なものを、次のうちから一つ選べ。

解答番号は 28。

- 1 母親も子どもも〈学ぶ者〉の立場に立ってしまうので、子どもの自主性が損なわれるという問題。
- 2 親が横に並ぶことによって子どもに安心感を与え、効率的な「教え込み」ができるという効果。
- 3 〈教える―教えられる〉という関係があいまいになり、効果的な学習ができないという問題。
- 4 母親が自ら学ぶ姿を見せることによって、子どもに「学ぶこと」を教えられるという効果。
- 5 よい環境の中で子どもと共に学ぶことで、母親も新しい知識を学習できるという効果。

問 9 日本において近代以降の学校教育が必要であった理由として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 29。

- 1 限られた時間に多くの知識を子どもに学ばせるために、効率的な「教え込み型」の指導が求められたから。
- 2 室町時代から行われてきた「しみ込み型」の制度では近代化を成し遂げることができないと考えられたから。
- 3 「自然に」学ぶことよりも、人の持っている知識や技能や考えを学習できる環境が重要だとされたから。
- 4 「しみ込み型」教育において子どもが人々の真似をしたりおとなを質問攻めにしたりする弊害が現れたから。
- 5 近代化を推進するためにはアメリカのようなカリキュラムに基づく権威ある教育が不可欠と判断されたから。